



～さらに安全・安心なまちをめざして～ セーフコミュニティ通信 第7号

発行 平成28年12月 郡山市セーフコミュニティ推進協議会



平成28年11月8日 (火) ～11月9日 (水)

事前指導を行いました！

去る11月8日 (火) ～9日 (水) の二日間の日程で、市役所西庁舎3階多目的ホールを会場に郡山市セーフコミュニティ事前指導を開催しました。

事前指導では、平成29年度内のセーフコミュニティ国際認証取得を目指す本市のこれまでの取り組みを報告し、海外のセーフコミュニティ認証審査員から助言・指導をいただきました。

国内のセーフコミュニティ取り組み自治体職員その他、韓国の大学、医療、自治体関係者等30名も参加され、多くの関係者が見守る中、各対策委員がプレゼンテーションを行いました。

審査員には、セーフコミュニティ支援センター長で公認認証審査員の趙竣弼 (チョ・ジュンピル) 氏、オーストラリア セーフコミュニティ財団 プログラム マネージャー のMegan Brotherton (ミーガン・ブラザートン) 氏をお迎えし、丁寧で分かりやすいアドバイスをいただきました。



韓国視察団の皆さん



セーフコミュニティ推進自治体の皆さん



審査員紹介



(審査員) ミーガン・ブラザートン氏
(アドバイザー) 白石陽子氏
(審査員) チョ・ジュンピル氏

◇チョ・ジュンピル (Cho JoonPil)

- ・ 亜州 (アジョー) 大学医学部 救急医療部 教授
- ・ コミュニティセーフティプロモーションセンター長 (セーフコミュニティ支援センター) (インターナショナルセーフスクール認証センター)

◇ミーガン・ブラザートン (Megan Brotherton)

- ・ オーストラリアセーフコミュニティ財団プログラムマネージャー
- ・ セーフコミュニティ認証書類審査担当 (アメリカ、カナダ)
- ・ 認証審査チーム (オーストラリア、中国)

【審査員からの質疑応答および助言】（主なもの）



外傷サーベイランス

11/8 (火)

13時30分～14時20分



発表者：寺西 寧 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
ミーガン・ブラザートン	主観的にとらえた現状認識とデータに基づく客観的な事実が相違又は一致した事例を挙げてください。	(相違した例) 主観的な認識・・・放射線による健康被害への不安 客観的なデータ・・・健康被害は発生していない。 (一致した例) 主観的な認識・・・郡山駅前には犯罪が多いのではないかと。 客観的なデータ・・・郡山駅前交番管内の犯罪発生率が最も高い。 (判断しかねる例) 主観的な認識・・・こどもの虐待が増えているのではないかと。 客観的なデータ・・・虐待の相談件数は減少傾向が続いている。

【助言】

審査員	助言内容
ミーガン・ブラザートン	データばかり見ていると本質を見誤ることがあるので、主観的・客観的の両面から取り組みを進める必要がある。

交通安全

11/8 (火)

10時20分～11時10分



発表者：安部 賢児 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
チョ・ジュンピル	自転車の事故に着目している一方で、オートバイの事故に言及していないが、事故の重傷度はオートバイの方が大きい。データを分析していますか？	オートバイの事故は分析していませんでした。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の事故の状況別（歩行中、自転車、運転、同乗等）に分析が必要ではないか。 業務中の事故については、労働環境に着目する。
ミーガン・ブラザートン	<ul style="list-style-type: none"> 対策が国道や県道に関するものもあると考えられ、国や県に活動をフィードバックすることも必要である。 既存の取り組みの成果を確認しながらセーフコミュニティ活動を進めること。

こどもの安全

11/8 (火)

11時20分～12時10分



発表者：吾妻 利雄 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
ミーガン・ブラザートン	課題の「10～19歳（小学生～高校生）は、交通事故が多い」に係る取り組み「交通安全教室の改善」については、交通安全対策委員会での取り組みと重複しているが、どうするのか？	現在、こどもの安全対策委員会での取り組みを考えているところだが、今後、交通安全対策委員会とも協働で取り組みを考えていきたい。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	<ul style="list-style-type: none"> こどもが関わるものなので、「セーフスクール（学校版セーフコミュニティ）」を作り、そこの連携を図っていけば良いのではないかと。 セーフコミュニティはいじめ等による「心のけが」も含まれるため、セーフスクールと連携すれば、心と体の両面をケアできるようになる。
ミーガン・ブラザートン	虐待に関する取り組みに「健診時に「子育て講座」を開催とあるが、虐待している親はこどもを健診に連れてこないことが考えられるので、受診しない家庭もフォローできるようにすれば、なお良い。

自殺予防

11/8 (火)

14時30分～15時20分



発表者：若月 ちよ 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
チョ・ジュンピル	自殺の原因として件数の多い「健康問題」は、具体的にはどのような内容なのか？	健康問題の詳細のデータは、まだ取れていない
ミーガン・ブラザートン	相談窓口周知カードを様々な場所で配布できるよう工夫しているとのことだったが、相談があった方に相談窓口の情報をどこで得たのか、聞いているのか？	各窓口で相談対応している者が聞いていると思うが、集約まではしていない。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	・自殺の原因としての「健康問題」について、もう少し深く踏み込んで現状（データ）を見ることで弱者が誰なのか見えてくる。また、ステップを踏んで具体的にしていくことで、見えてくることがある。
ミーガン・ブラザートン	・オーストラリアでは、職場で「精神保健第一の日」を決めて、「こんなものがあるよ」と新しい情報を伝えあったり、どのように同僚に気付いてあげられるかなど、みんなで考える。 ・若者の「精神保健第一の日」もあるが、ボーイスカウトなど同世代の方たちが取り組むなど、同年代、接点のある方たちが取り組むのも一つの方法である。

防犯

11/8 (火)

15時30分～16時20分



発表者：佐藤 晃正 委員長

防犯対策委員への質疑はありませんでした。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	・犯罪発生率が高い窃盗犯を重点課題としているが、発生率が低くともケガに直接結びつく粗暴犯の対策を検討する必要がある。
ミーガン・ブラザートン	・対策の防犯カメラだが、捜査には有効であるが、犯人のためには設置をアピールするなどの工夫が必要である。 ・犯罪多発地区では、イベントや人が集まる環境を作り、人の目で犯罪抑止を図る手法もある。

防災・環境安全

11/9 (水)

9時30分～10時20分



発表者：影山 洋二 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
チョ・ジュンピル	災害時に自治会（町内会）が果たした役割の事例を挙げてください。	例えば、久留米地区の場合、東日本大震災の際に、避難所で炊き出しを行うなどの避難者支援を行い、この活動は避難所が閉鎖されるまでの10日間にわたり継続した。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	・日本は自然災害が多い国であり、韓国としても学ぶ点が多い。自治会（町内会）が機能するよう、日頃からのコミュニケーションを大切に活動を進めていただきたい。
ミーガン・ブラザートン	・災害に対する不安は、情報の共有の度合いが大きく関係している。メディアの力も有効であり、協力していくことも大切である。

高齢者の安全

11/9 (水)

13時30分～14時20分



発表者：船山 陽子 委員長

【質疑応答】

審査員	質問内容	対策委員会の回答
チョ・ジュンピル	認知症高齢者SOS見守りネットワークについて説明してください。	認知症高齢者SOS見守りネットワークは、高齢者が行方不明になった時に、警察だけではなく地域の関係機関・事業所が、速やかに行方不明者を発見・保護する仕組みで、町内会、タクシー業者や郵便局、ガソリンスタンドやコンビニエンスストア、宅配業者など、日頃地域で活動している企業や住民団体等の協力によるものです。

【助言】

審査員	助言内容
チョ・ジュンピル	・高齢者の自殺が多いのは、日本の特徴であると思うので、自殺対策委員会と連携を図って対策を進めてください。
ミーガン・ブラザートン	・防災・環境安全対策委員会でも、高齢者をハイリスク者としていたので、お互いの対策委員会が連携を図ると良いと思います。

審査員講評 主なもの



- ・けがや事故に関する地域診断をもとに、データに基づき対策すべき6つの分野を選定していることが確認できた。
- ・日本では、郡山市と同じ分野に取り組んでいるセーフコミュニティ認証自治体があり、その活動が大きな参考となる。来年には、審査を予定していると伺っており、活動の成果を期待している。



(審査員)
チョ・ジュンピル氏



(審査員)
ミーガン・ブラザートン氏

- ・今回のプレゼンテーションでは、国、県、市、地域住民の果たす役割について整理したスライドがあったが、このような説明が審査員には必要で重要ともいえる。
- ・それぞれの対策委員会が、個別に検討を進めてきた結果、複数の委員会で同じような課題が設定されているので、対策委員会相互の協力を図る段階にきているのではないか。
- ・郡山市では、認知症高齢者SOS見守りネットワークのように素晴らしい取り組みがあるので、ぜひセーフコミュニティ活動にも活かしていただきたい。
- ・日本では、セーフコミュニティを推進する自治体のネットワークがあり、互いに情報交換を行っている。郡山市が認証取得済みの自治体に学ぶだけでなく、他の自治体も郡山市から学ぶことがあると考える。

各対策委員会では、今回の事前指導による審査員からのアドバイスをもとに、より安全で安心なまち“こおりやま”の実現に向け、更にセーフコミュニティ活動を展開して、**平成29年度の国際認証取得**を目指して参ります。



発行 郡山市セーフコミュニティ推進協議会

〒963-8601

福島県郡山市朝日一丁目23番7号

事務局 郡山市市民部市民安全課セーフコミュニティ推進室

電話 024-924-2151 Fax 024-921-1340

e-mail si.mi.nanzen@city.koriyama.fukushima.jp

今までのセーフコミュニティ通信はこちらから→

